

## 夜間唾液pH低下と気管支喘息患者の気道過敏性の関係

近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科

佐野博幸、渡部仁成、佐野安希子、星 晋、山藤啓史、西川祐作、市橋秀夫、山片重良、内藤映理、池田容子、宮良高維、岩永賢司、村木正人、富田桂公、東田有智

**【目的】**唾液pHは胃酸逆流とその緩衝作用によって規定される。また、胃食道逆流症においては夜間にpHの低下があることが指摘されている。そこで今回、我々は気管支喘息患者の夜間の唾液pHおよび緩衝作用と気道過敏性の関係について検討した。

**【対象と方法】**軽症喘息患者9名(男7名,女性2名:平均年齢33.3歳)と健常者10名(男7名,女2名:平均年齢31.2歳)から日中(坐位)及び夜間(仰臥位)に唾液を採取し,pHはpH測定紙及び電子pHメーターで測定した。また,唾液の緩衝能は0.01 N HClを用いてED<sub>50</sub>として評価した。気道過敏性はアストグラフ法で測定し,PD<sub>35</sub>-Grsとして表記した。

**【結果】**唾液pHの測定はpH測定紙と電子pHメーターで有意な相関を認めた( $R^2=0.94$ )。健常群および気管支喘息群ともに日中に比べて,夜間唾液pHの低下( $\Delta$ pH)が大きかった。また,気管支喘息群の夜間唾液 $\Delta$ pHは健常者に比べて有意に大きかった。日中の唾液ED<sub>50</sub>については健常群と喘息群で有意差は認めなかった。気管支喘息患者群のPD<sub>35</sub>-Grsについては,夜間唾液 $\Delta$ pH( $R^2=0.46$ ;  $P<0.05$ )および唾液緩衝能ED<sub>50</sub>( $R^2=0.61$ ;  $P<0.05$ )と有意な相関を認めた。

**【結語】**pH測定紙による簡便な唾液pHの測定で,気管支喘息患者の気道過敏性を推測出来るかも知れない。